

## 宮前区らしいしくみ「ラウンドテーブル」をお試し実施しよう！

ミーティング1：キックオフ

令和3（2021）年11月3日（水・祝）13：30～16：30

## テーブル2：シニアが気軽に立ち寄れる場（宮前区版道の駅？）をつくってみよう！

00:00 [音楽]

00:09

じゃあすみません、改めまして皆さんすいません、今日はありがとうございます、お越しいただきまして。  
2班のファシリテーターやります、山田と申します、よろしくお願ひします。

00:21

この班はちょっとさっき西村さんから少しお話いただいたんですけども、シニアが気軽に立ち寄れる場、宮前区の道の駅を作ってみようっていうことで、そのテーマに、少し皆さんで、じゃあ実際にはシニアの方がどういう場所を必要としているのか。

どういうことだったら行ってみたいとか、実際にそれを実現するために、地域の人がどういう人たちがどういうことができそうかっていうのを出し合って、実際こう持続可能な仕組みとして、そういった場所を作れないかっていうことをみんなで考えてみようっていうテーブルになっています。

もともと西村さんには先ほどこれからやりたいということについてお話いただいたんですけども、もともと私のパワポで説明させていただいた、西村さんがエンジョイシニアの大文化祭っていうのを小林さんにご協力いただいて、地域包括支援センターでやったというところ、既に1回やった。

で、ただそこでいろいろな課題も見えてきた。

自分がやりたいをこういうふうにしたっていうようなことも見えてきた。

というところで、まずちょっとそこの話をですね、共有をさせていただいて、じゃあその先どうしたらいいんだろうということをぜひ皆さんでお話をしたいなと思っていますので、ちょっとここからは西村さんの方から共有いただければと思います。

01:37

先ほど山田さんからもあった、こちらいただいた資料の中の何ページ、イベントの様子があったんですけど。はい、25ページの写真になります。

フレンド神木地域包括支援センターで、2年前かな、に行いました。

私もさっきお話しした通り、この先ずっと宮前区に私住んでいくと思うんですね。

で、引っ越さないと思います。

で、30年40年、まあいるとして、どんな年の重ね方をしたいかなあと。

それで30年、40年後どんなまちであって欲しいかなっていろいろ考えていた、いました。

で、どうしても私も今子育てをしていますけれども、ちょっと思いを馳せてというのはどうしてもシニア向けになるんですね。

その中で、このエンジョイシニアの大文化祭っていうのを、イベントを一つ、企画しました。  
で、ただこれ1日やったときは良かったんです。  
で、そこに向かうまでもとっても楽しかったんです。  
運営も楽しかったし、人を集めたり、あと参加者、出店者を募ったり楽しかった。  
ただ、もうここの11月15日、11月で終わった後が続かないんですねイベントをどうしても。  
もうそこまでの熱量で全部使いきってしまって、継続ができないっていうのが一つ課題だなという感じていきます。  
なので、例えばじゃあそれは常設した箱、何か場所があれば、そういうところが継続できるのか。  
それとも単発、単発のイベントのまま、何か継続できる方法がないのかなってのが、こうちょっと自分の中で  
まだ、なんだろうな、考えが思い浮かばない一つになります。  
継続するにはどうしたらいいか、というところなんです。  
で、私がたまたま行ったのがイベントなんですけれども、これをじゃあずっと続けていくというイメージの中で道の駅ってのがあったんですね。  
道の駅ってなんかもう常設されてるものなので。  
ただじゃあ道の駅をやったとして、それをどういうふうに運営したらいいのか。  
例えば人はどうするのかとか、アルバイトお金はどうする、あと物はどうするのかというところもあるので、  
そういった本当に運営の部分、細かい部分も実現可能なのかなとちょっといろんなアイデアを皆さんからいただきながら、イベントタイプがいいのか、それとも場所を持ったほうがいいのか。  
じゃあシニアの方たちにここで何を提供するのかっていうのを考えていきたいなと思っています。

04:35

写真、こんな形で実際どういう交流スペースがフレンド神木にあって、実際どういう方が出店をされてたんですか。

04:53

はい、あの出品者に関しては、私はFacebookと宮前区のコミュニティ、宮前区について話し合う掲示板みたいなものがあるんですけども、そちらでシニア向けのイベントをやろうと思ってますけどどうですか？っていう声掛けをしたんですね、もう不特定多数に知らない人に。

そしたらいいですねっていうことだったり、私こういうのだったら出せませう出店、出せませうとか、私こういうイベントでこういう出し物したことありますよっていうお声がけをたくさんいただいて、その後その方たちに直接ダイレクトに今度実際やろうと思ってるんですけどどうですかっていうのを、聞きに、聞いていきました。全部メールというか、メッセージ上でやりました。

で、出していただいたのは、一人は小物、布小物を作っている方です。

出店いただいた世代は皆さん大体多分40代ぐらいの方たちが出店者になります。

で出店のものは、小物だったり、あとは和菓子、お茶、お茶を立てる。

その場でお茶を立てて、和菓子と提供するっていうことも出店していただいた。

あとは指ヨガって言って指のマッサージのようなものの出店がありました。

あとは、耳ツボピアスって言って、耳のツボにこうガラスみたいなストーンを貼って、耳ツボを指圧しながら、

おしゃれもあのピアスとしてできるって飾りができる、できるアクセサリーですね、といった方もいたし。

あとはそうですね、フラワー、あのお花の方もいたし、お花のアレンジを売っている方もいました。

あとは薬局。

漢方とかそういった自然な材料を使って漢方を売ってるのが宮崎台になるんですけれども、そちらの方も出店いただきました。

全部もちろん出店なので販売していただきました、そこで。

で、あの参加、お客さんとしては近所に住んでいる方だったり、あとはフレンド神木なので、その施設の利用者の方に来ていただいたりしました。

あとはその出店としてはそういうものなんですけども、まあステージ、ステージというか、ちょっと披露、催し、なんて言うのかな、披露していただいたものが二つありまして。

一つは、ミュージックケアといって、子どものリトミックのイメージなんですけども、リトミックみたいなことをこのシニアの方たちにやっていただく。

音楽と一緒に体を動かす。

で、あともう一つが笑いヨガ。

笑いヨガといって、笑いましょうっていう何か体操も含めた笑いましょうみんなであってというような、あの演目を出していただきました。

大体それで、10時から、何時くらい、3時くらいまでやったので、お昼挟んでやりました。

それと、はい、あとうなぎも売りました。

08:03

うなぎも売った。

08:04

はい、全部完売しました、うなぎ。

とかそういうようなまあイベント。

まあいわゆる町のイベントとそんな変わらないと思います。

08:15

出店者側の皆さんの感想、やってみた感想とか、来られた方の感想とか、ぜひ。

08:24

そうですね、あの出店者の方たちの感想というのは、おそらく皆さん私と同じぐらい 40代 50代ぐらいの方なので、子育て向けのイベントはよく出て、出した方だったんですね。

ただシニアに向けたイベントに出店したのは初めて出ということで、最初どうしたらいいかということ、お問い合わせや質問もあったんですけども、実際やってみたら、そんなに子育て向けとかシニア向けとか、出店してるほうはそんなに変わらない、意識は変わらないみたいで。

客層としてはシニアの方なんですけども、そんなに変わらずに楽しく参加できたっていうこと言っていました。で、運営に関しては、私、基本的に私運営は1人でやったんですけど、やはりちょっと最初は構えてたんです

ね。

シニアの方、シニアの方が集まるだろうなと想定していましたから、例えば物が転んだらどうしようとか、なんかそういうのがあったんですけれども。

でもやっぱりそこは出店者側、出店者の方たちも一緒に見ていただいていたので、私1人で何か大変な思いをしてるっていうことはなかったです。

09:40

ありがとうございます。

すいません、私、続けてになっちゃうんですけど。

フレンド神木、小林さんの、まあ場所を貸すというか、どういうあれがあってとか、やってみてどうだったかとか、何かその辺ぜひ伺えればと思います。

09:56

あの、本当に紹介していただいた通り、コンテンツを持ってきてくださるって、スゴイありがたくて、包括支援センターとして何かをやりようとしたときに、自分たちで運営をやり、中身も何か認知症についてとか何とかについてとか考えて自分たちが演者になりってやると、ああちょっと大変だなんて思うところを、コンテンツとか運営を一切お任せできる状態だったので、大変ありがたかったです。

場所を貸せばいいだけというか。

場所については、地域交流スペースというのが特別養護老人ホームにはなければいけないとなっているので、そのなんですかね、さっき公共施設の地域化とかっていう話がありましたけど、そこじゃあいくらで貸すのかとか、何、テーブルとかもお貸ししていいのかとか、その辺は全くなかったものを、ちらっと一応作ることができたので、今後もそういうふうには活用できるはずなんです。

まあ特別養護老人ホームなので、エレベーターもあったりはするものの、ちょっと奥まってるんで、道路側から歩いている方がバス通りを歩いている方が、何やってんだろって入ってくるような、なんて言うんですかね、ちょっとセミオープンな雰囲気は全くないので、チラシを見てまさにそれのために行こうとされた方しか来てはもらえなかったかなっていうのが、すごく残念というか。

11:25

広場でやったわけじゃないので。

施設の中なんです。

で、その施設がまた道路からちょっとこう登って行かなきゃいけないようなところなんで、何やってるんだとうってうかがい知れるような場所じゃないんですね。

私チラシをまあ、手でポスティングをしたんですけど。

何千、少なくとも1000枚以上はポスティングしました。

根性、もう山が、山が多いので。

でもポスティングをして、でもそのチラシをやっぱり持ってきてくれた方がいるんですよ。

すごいそれは本当に嬉しいなと思って。

こんなのがあるんだと思って来てみましたっていう声もあったし、参加者で遊びに来ていただいた方で。

あとはここに老人ホームがあることを知らなかったっていう方もいたんですね。

知らなくて、チラシが家に入ってたから、こんなのやるんだと思って来てみましたっていう方もいて。

そういうこう、広報にもなるなと思いました。

なので、先ほどの公共施設もそうですけれども、こういった宣伝したいって言ったらちょっと言い方あれですけども、そういった人たちとあとはそれをその場所を使いたいっていう人たちのマッチングもありなんだなっていうふうに思いました。

12:46

まさに同じようなことを例えば、川崎市内の他の包括支援センターでやっぱり施設持ちのところと同じようなスキームでもしかしたらやれるかもしれないねっていうアイデアもありましたし。

別に施設持ちじゃなくてもいいんですけど、包括とコラボするとか、ちょっとどこかと一緒っていうのも、一旦うちとはやってますっていうのは、他の包括さんもちょっと敷居が下がったりしていいかもねなんていう話はしましたけど。

13:16

多分そこからコロナがあったので実際、麻生区でやる、やろうと思ってたんですね。

ただ、あのコロナになって、じゃあどういふうに人を入れたらいいんだろうねって話をしてるときに、まあ緊急事態宣言があったり、イベントはちょっとタブーというかんじになったりして、それとこう続いて、結局一回白紙にしようっていうのが麻生区の包括と話している現状になっています。

ただ今こうして時間が空いてしまった中で、また1からやろうとか、となると、ちょっとやっぱりイベントって続けるの大変、続けなきゃいけないと頭ではわかってるんだけど、続けるの大変だなあっていうのがすごく印象に残っているところです。

多分大きい、大なり小なりイベントやってる方が感じると思うんですけども、やっぱり継続するにはどうしたらいいのかなっていうのが、あの大きな課題になってます。

あとは人ですね。

運営したいっていう人はいるんですけども、それがすごく負担になってしまうと、やっぱり運営者になるのは厳しいのかなと思います。

やっぱり、例えば子育てをしているとか、仕事をしている、あとは介護がある、それぞれ事情がある中の、隙間で多分、隙間でその地域のことについてやりたいと思ってる方がいるんだけど、それが負担が大きくなってしまえば、やっぱり仕事に影響がある、子育てに影響がある家庭のことに影響があるとなってしまえば苦しくなるし、苦しくなると、もうやりたくないってなってしまう。

こう負の連鎖になってしまうのはよくないと思っているので、どうやったらその負担が軽くなるのか。

人を増やせばいいのか、1個1個小さいものにする、小さい運営にするのか。

そこはちょっとまだノーアイデアなんですけども。

こう皆さんがやった経験をいろいろお聞かせいただきたいなというふうに思っています。

すいません、ばーっと喋ってしまっ。

15:16

私からの質問ばかりになっちゃったんですけど、ちょっと皆さんからぜひこういうことどうだったのとか、聞

きたいことあればということぜひお聞きいただけると嬉しいです。

15:27

じゃあよろしいですか。

(はい、お願いします。)

麻生区という話題が出たので。

冒頭のお話にあった、熱量が続かないっていうことは、いわゆるモチベーションっていう意味ですよ。

(はい、そうです、はい。)

じゃあそのモチベーションというのは、運営スタッフのお話ですか、それとも参加者側のモチベーションですか、それともコンテンツのモチベーションですか。

15:50

参加というのは遊びに来る人たちのことですか。

(はい)

運営です。

15:53

運営側のモチベーション。

今お話にあった、本業の仕事とか子育てとか、どうしてもそちらのほうに影響が出るっていう危惧があるので、本当はやりたいんだけど、どうしてもそこで二の足を踏んでしまうっていう話と、いやいやでもやりたいんだけどっていうところのモチベーションのバランスが難しいっておっしゃっている感じで、そういう意味ですか。

(はい、そうだと思いますね。)

そういう意味ですね、なるほど、なるほど。

で、そこに対して、案は今のところ、ない？

16:27

ないですね。

私もイベント運営、他のイベントでも運営だったり出店になりますけれども、結局いつも大変だなと思いつつ参加している形なので。

なのでエイヤーと言えばエイヤーだし、あのもうここまで頑張ればあと終わるって思っちゃってる場所もあるし。

実際子どものこととか、家事、あと仕事なんですけども、影響が出てしまいがちで、でもこの日が終わればちょっと楽になるかもって思ったり、それが良いか悪いかわかんないんですけども。

そういうふうにも思ったりしながらでもやっている方って多いんじゃないかなというふうに思います。

17:08

ちなみにどのぐらいの頻度なんですか、このイベントとおっしゃっているのは。

17:12

そうですね。

今だと多いときは年に5回、6回はないか、4、5回はあったと思います。

17:23

じゃあ2ヶ月に1回はやっている感じ。

17:25

そうですね、はい、多いときは。

麻生区が多いんですけど、麻生区のイベントだったり、町田だったり。

なんかその、私が出店、出店ですよ、出店として。

多いときはそれくらいありました。

17:38

ここにかかる準備とか、後片付けとか、そういう前後の時間ってどのぐらいかかるんですか。

一つのイベントに対して。

17:47

そうですね。

でも、私がイベントを運営、企画して運営したのはこのフレンド神木のエンジョイシニアなんですけど。

これは先に日にちを決めてしまったので、もう2ヶ月後に決めたので、そこの空いてたので。

なので小さい規模で自分1人でできる分量をやってるんですね。

なので2ヶ月だったんですけども

片付けとかは後の報告書を書いたりぐらいなので、その後はそんなにないですね。

18:18

片付けはそんなでもない。

(そうですね。)

準備はどれぐらい？

18:22

でもイベントの規模にもよると思うんですけども、多分半年・1年前からやる人もいます。

そうじゃないと会場が取れないとか、そうなるので、そうずっと会場、会場として、人を押さえて、とかって

なるとやっぱり半年、せめて半年前からは多分準備する。

18:44

年6回のイベントに事前に半年前ぐらいから仕込んでいくって感じなんですか。

18:50

出店、出店の話です。

出店ですと、その日決まればそこに向けて準備をしていくかんじなので、人によってはこの販売だと2ヶ月3ヶ月ぐらい前から作る人もいるし、何かワークショップだと1ヶ月前ぐらいから準備する人もいます。

19:12

なるほど、はい、ありがとうございます。

19:24

はい、ありがとうございます。

えっと、西村さんにはまちづくり協議会の発信をしていただいたりして、私は内容的には理解しているつもりではいるんですが、ちょっと確認なんですけども。

何かしたい4、50代と、方一方に楽しみを享受する、つまりエンジョイシニアだから、こうシニアが楽しみを享受する。

で何かをしたい4、50代とのマッチングは素敵だなと思ってます。

一方で、その先ほどの納得いく人生、納得のできる人生というキーワードにとっても惹かれてるんですけど。

その、一過性の楽しみを提供するっていうことと、それを享受するっていうことと、何かそのところにね、やっぱり無理があるのかなとちょっと思ったりするんですね。

20:17

実は私は思ってます。

なので、それが私が経験があるのが、やっぱりイベントに出店したっていうことを、経験がなかったので、どうしてもイベント最初に思いつくのがイベントだったんですね、イベントをやる。

でその日1日っていうことが思いつきやすいし、やりやすかったのでそうだったんですけども。

でも実は、それってさっきの一過性に終わってしまっはもったいないなっていうのも頭のどっかであったんですね。

なのでこれを継続するには、さっきの話になるけど、継続するにはどうしたらいいのか。

コンテンツをどういうふうにとどんどん増やしていけばいいのかってあたり1個のコンテンツをガーンと長くやっていくのがいいのかだったり。

あとはそれをやる運営の人も必要だし、やってくれる、どうやったらやってくれるかっていう、何か伝えることも必要だし。

なので、何かイメージとしてはイベントよりも、なんとなく常設の私はちょっとイメージがあったんですよ、そっちの方がいいんじゃないかなって。

そうじゃない、そうじゃないと続かないと。

ただそれをやるにはいろんなハードルがあって、それを皆さんどういうふう考えてるかな、どういうふうアイデアないかなと思って今日は臨んでいます。

21:44

私ばかりしゃべっちゃいけないので、

いかがですか？

21:49

ちょっとじゃあよろしいですか、お伺いして。

資金。イベントをやる上にはですね、やはり人、物、金、資金ですね。あと場所。

今お話しされた時間と、というものがやはりうまくコントロールされていかないと、これは運営するほうも、また来ていただく人たちにも納得できるようなものできないと思うんですよ。

一夜漬けのイベントをね、準備してやりましたので、やったところで思いつきにしかありません。

そして今まで、その文化祭というんですかね。

こういう形でやった中で一番、身を持って苦労してるというか、困っているっていうことは、この五つぐらい挙げた中で、みんな同じですから。

それでもここだけが一番解決しなくちゃいけない、というような項目ってあるんですか？

今までやってる中で。

23:00

そうですね。

一番は、どうやったら継続した、継続していけるかなということ。

それがイベントであればイベントの継続だし。

そうですねイベントでしたら、イベント例えば定期的に半年に1回、4ヶ月に1回にするなら、それをどういうふうにしていったら継続できるかなって。

本当だったら今回フレンドでやったのは秋なんですけれども。

春にフレンドでやるか、もしくは麻生区からもやってほしいって話があったので、麻生区でやるかっていうのを思ってたんですね。

結局麻生区でやってみようってことになったんですけども。

そこでちょっとコロナがあったので、なくなりました。

なので今コロナ禍が開けて、開けてというか、開けた後に、やろうってなったときにやっぱりちょっと大変さがあるので、それをどういうふうにしたらいかなってというのが、あります。

ちょうどこの希望のシナリオの会議もあったので、そこでイベントの継続がいいのか、それとも、何かそういう施設があった方がいいのか、その常設の何か箱があったほうがいいのか、継続するには。

っていうのをちょっと考えたいなと思ってます。

24:16

やっぱり自分自身いろんなイベントにちょっと出ていて、実際にやってることもあるんですけど。

やはり今、移動図書館をバスでやってますので、そういう視点で、1ヶ所だけに収まらずやはりいろんなところに出向いて、広い認知をしてもらおうっていうんですかね。

宮前区の1ヶ所だけに、あるいは麻生区の1ヶ所だけっていうんじゃなくて、移動していけるその場所をまず確保するというのがね、認知度を広める一番あれだと思いますね。

それをやることによって、資金もこれは協力してもらえらると思うんですよ。

人も、やはり1ヶ所のところの人員じゃないわけですから、いろんなところに地域の人たちにそれを声掛けができる。

で、そのチラシを1000枚自力でやったわけですから、そのパワーがあれば、おそらくそれがあるものだと思うんです。

それに賛同した人たちが何か所かの場所に着いてくれたら、これはもう今言うようにもう、場所も、うん、提供してもらえるところは出てくるはずですから、その良さを知っていただくと。

あとモノ。これはやはり先ほどありましたように、宮前区の中にはハンドメイドでね、やってる方たちがいても自分の作品をまだまだ発表したいんだけどその場所が、見つけれないっていう方がいるんですよ。

いわゆるこれはこれはいろんな情報も出ている中でも、そういうところを掘り起こしてあげるのが一つなんです。

やはり今ネットで販売しちゃっておりますけどね。

やはりそこは、人、人と人と、顔と繋がる。

場所で物を見て、人が繋がってそういう地域に反映していくって一つの大きなものがあると思うんですね。

だから今言ってる中で、これを解決していく意図っていうのがまず1回に収まらないということです。

移動図書館じゃないけど本当にそれをやるということですよ。

で地域、広めてもらうっていうことは、やはりそのチラシを作って、いついつにしますよと。

その地域限定じゃなくて、区内全域にいけるあれも発信しもらうことが一番だと思いますね。

その中には、商店もあれば、町内会もある。

先ほどもお話ありましたようにね、そういう広い視点で言うと、協力者が出てくると思います。

なんかそんな気もちょっとしてたんでね。

27:25

ありがとうございます。

27:28

ちょっと今の質問にあれなんですけど。

西村さんのお話を聞いてると、なんとなく結構やれる人は、Facebookで募ったらたくさん出てきたり。

場所は意外と麻生区からも声がかかったりとか、お金は意外とみんな、なんて言うんですかね、自分の中で回しているっていう中で、ただイベントをやる自分自身の人工というか、

(そうですね。)

が、一番困っていて、そこが継続的にどう回していったらいいのかっていうところが一番の課題っていうかんじなんですかね。

28:05

そうですね、なんか運営。

でも今お話聞いて、フレンドでやったときに私1人だったので、私1人ができる範囲でやったんですよ。

それを2回3回続けていってなったときに、ちょっとどういうふうにしたらいいんだろうってすごく思ってしまったんですけども。

いろんな場所で、移動図書館ってのは大きな図書館じゃないですよ。

きっちとちっちゃい図書館で、小さい規模でいろんなところでやっていくっていうふうになると。  
で、その場その場、そのとき、その土地でやりたい人を募るでもいいのかもしれないと思いました。

28:51

それでちょっと聞きたかったのは、こういう企画をしたときに、公園が自由に使えるんですか。  
申請は。

29:00

それはどういう意味ですか。  
内容による。

29:04

いや、だからこれと同じですよ、これが場所がただ公園になったときですか。

29:10

それを今公園は公園の基準があって、どうそれをちゃんと審査をしなきゃいけないですけど。  
そこをちゃんとクリアしなきゃいけないですし。

29:22

そうすると今言うような、移動図書館じゃないけどそれは大きなあれです、場所になりました。  
だからマルシェと同じで、やはり公園がただの遊び場じゃなくしてね、こういう形で公園を使うって言ったら  
ば、いわゆる使い方が変わってきますよね。

29:43

おっしゃる通りですね。  
場所としては公園っていうのも当然あるし、あるいはあと、どうぞ。

29:55

そうですね。  
包括支援センターとしてはですね、やれる能力とやれない能力がある人がいまして。  
例えば私達がよく相談対応をするときに、認知症なんだけれども、すごく体は元気なんですとか、いわゆる介  
護保険サービスを手当てすればそれでいいでしょって思われるかもしれないんですけど、既存のサービスでも  
やっぱり収まりきらない方っていらっしゃるんで。  
活用したい、活用したいという言い方も失礼なのかもしれないんですけど、おできになることができ、でき  
ない部分はまあ支えてもらってっていうふうになるといいなど。  
例えば、車椅子の方、シニアの文化祭やってますけど、自分1人ではこれません。  
やっぱり近くまで出向いてやって、移動図書館のように近くでやってくれると、そこまでならいけるかもしれ  
ないとか。

何か、常設でやれて、きちんと収益も上がってっていうようなことだと、そんなもう企業じゃないですか。

30:58

そうなんですよね。

30:59

もうプロのやることで、多分先ほどのスーツの方が、じゃあ俺たちがやるよって多分なっていく話を地域でやるってというのは、やれることをやれる時間とか人とか能力が流動的であっていいってことなのかな。

だから西村さんがちょっと辛いわって言っても、じゃあ私が今回はやるよっていう行き来だったりするような気がしていて、それは土地活用も、人の活用も、まあお金は変わらないかもしれないですけど。

なんかそうなのかなというふうに思うと、先ほど介護保険のサービスってちょっと私言ったんですけど、デイサービスの事業者さんあるんです。

だいたいコンビニエンスストアぐらいの大きさとかでやっていて、そこはある程度、週に1回のフィットネス的なことをやる人たちが集まっていますとか、そこに新店してくださると新しいなって。

実際、八百屋さんが行っているデイサービスがあって、ちょっと面白いなと思ってたりするんですけど。

そういう地域貢献をしたいデイサービスさん。

デイサービスもなんて言うんですかね、変な言い方、おかしいですけど、決まり切ったことをやってるので、新しいことがあまりないので、そこに持ち込むと、もしかしたらちょっと面白いかもしれないとか。

とさっきちらっと言ったのは、本当に私目線で申し訳ないんですけど、自動車の免許を返納してほしい。

もう認知症で車ぶつけるので、ぜひ車のほうは廃車にしてほしいと家族なり包括支援センターなりが一生懸命お伝えをして、お父さんが頑張って免許を返納しました。

車がありません。

でもお家にはガレージがあるんですよね。

そこでガレージセールじゃないけど、そこを活用していただけて、そこがちょっとでもお金になったらその分の固定資産税が払えるじゃないですかとか。

本当はちょっと言いたいんですけど、なかなかね個人情報だし、私はその家のおじさんが車を返納したのは知ってるけど、そんなことをみんな言うわけにはいかないから、つなぎ方がちょっと困ってるんですけど。

それこそ近所の方で障害のお子さんがいると、そこに障害のサービスが来るんですよ。

いつも、駐車禁止を取られてるんです。

そこを使えばいいのになと。

そこは、すいません、まあネットワークの問題ですけど。

それは今の話とはずれますけど、なんかこう活用してもいいよっていう土地の大きさによってイベントの数を誘導できるとかね、今日ここしかないんだけど、でも逆に同じようなお家が3ヶ所ぐらい近くにあったら、同日開催でここと、こことこありますとか。

ついでに公園もありますとか。

だからそんな流動性が逆に魅力なので、多くの人でとか、いろんな資源の情報があつた上で今回はこれとこれとこれを使おうってやれるのがいいところですよ。

33:44

そうですね、そうかもしれないですね。

33:48

小林さんは一番ご存知だと思うんですけど、地域包括とかってそもそもなんかこう月1回どこかの公園で、公園体操をやったり。

34:58

いや、うちがごめんなさい全然やってない。

34:02

まあ民生委員児童委員とかそういったところでやっててそこでまた情報発信したりとか、そこになんかいろいろな地域で多分やってることって、いろいろ既にやってることっていっぱいあって、何かそれとこううまくコラボレーションするとか。

34:20

このタイプのことはやってないよねっていう。

何かそこに一つあの多分、西村さんもこないだおっしゃってたと思うんですけど、運営がすごいめちゃくちゃ大変だけど、断然出店の方が楽みたいなの。

34:35

そうなんですよ。

なので出店ちょっと私は運営目線で、そのシニア向けのものが初めてだったので。

もうそれで全て初めて1から作るっていうちょっとイメージがあったんですけども。

確かにさっきの相関図じゃないけども、もういっぱい、いろんなをところをやっているの。

そこの冠だけを決めて、その冠を決めたあとの例えば決めておけば、場所とかそのコンテンツも、例えばいろんな団体さんそういったところからこう出ませんかって言えば、何かね、運営側が私1人じゃないにしても、何か1人で何か案内しなきゃとか、何かしなきゃっていうことはやる必要ないかもしれないですよ。

で、何かそういう今ちょっとイベントイベントって、イベントの話とか見づらけれど何をやるかの話ばかりですけども。

そこで、人が遊びに来ていただく、参加していただけると、何ができるかっていうと多分情報提供もできるし情報収集もできると思うんですねこちら側が。

例えばアンケートとか世論調査みたいので、いろんな質問なんかそういう情報とか白書みたいな集まってるけれども、生を声で聞けるっていうのが一番大きいなと思って、そういう方たちに来ていただいて。

さっき私が参加者がこんなふうに言っていましたってお話したみたいなのを、生の声を聞ける。

で、多分そこからどんな課題があるのかとか、どんなことに悩んでる。

じゃあその悩んでることを自分たちでそのエンジョイシニア側で解決できていけばそれでいいし。

例えばどこか、こがも会さんに紹介することもできると思いますし、何かこう生の声を聞けるっていうのも何かイベントだったりそういう人が集まる場所を作る上ですごい大切だなって思うんですよ。

そのためにはやっぱりちょっと継続、どうしよう、継続するにはってちょっと構えてしまったところがあったんですけど。

今いろいろいただいて、小さくてもいろんな場所でやる。

そうすればいろんな場所の声が聞ける、集まるっていうのはあるなって感じる。

36:46

いいですか、教えていただいて。

ちょっと今お話を伺っててわかんなくなっちゃったんですけど、西村さんのイメージしている最終ゴールってなんなんですか。

この場を作るってことなんですか。

37:00

そうですね、場を作る。

その場が合うと、その場の実態が、イベント種、イベントを作るのか、それともそういう箱を持って何かお店を開くとか、コミュニティーカフェなんかは、まだイメージができません、実は。

37:18

というのは、場をつくってみんなで集まってもらうということを最終ゴールにするのであれば、イベントは手段じゃないですか。

37:28

そうです、そうです、そうです。

37:29

あとは手段は他にもいっぱい色々あるので、別にイベントにこだわらなくてもいいと思います。

37:34

いいと思います、全然いいと思います。

私がイベントに出店してたんです。

なのでそのイメージがあったって最初にお伝えしたんですけど。

37:41

あとは最終ゴールは場ができるっていいってことなんですよ。

37:45

そうですね、場ができればいいってことですね。

37:46

その場でいろんな情報交換をできたり。

(そうです、そうです。)

35:50

活性化ができて、もうちょっとイキイキする。

そのための手段として、何とかイベントとかっていうことをおっしゃってるんですよね。

(そうですそうです。)

ああ、わかりました。

38:00

それはイメージがもう、いっぱいあるんですよ。

ただその何を選んだらいいのかっていうのがわからないっていうのと、あと自分がずっとイベント出店をしてたので、イベントを起こせばっていうのがちょっと頭あったんですね。

ただ、イベントだけがいいとは思ってないです、全然思ってないです。

なぜかと言うと継続できてないので。

38:21

手段なんですよ。

(そうですそうです。)

わかりました。

38:24

ちょっといいですか。

そういう意味で、今あの場があればいいっていうことで、どんな場がシニアにとって必要かとか、どんな人が困ってるみたいな話をここでちょっとご発言ない方からも少しお伺いできればと思うんですが。

お願いします。

38:42

ちょっと検討してほしいのが。

菅生分館っていう宮前市民館の菅生分館っていうところで、もともと利用者懇談会っていうのをもう何年もやってて、20年ぐらいあったのかな。

それで、卓球だとか、俳句だとか、いろいろな団体が20~30団体あって。

「分館まつり」っていうのを6月の第1、土日に毎年やった。

で、4、5年前からその1年前ぐらいから、企画運営会を持ち回りでやるということで続けてきた。

(はい)

それがだんだん企画する人が高齢化でいやになって。

その出店するときには1団体1,000円かなんか。

利用者懇談会で寄付だとか集めて、やってて、  
土日で地域の野菜を買って、玄関でやったり、あとは体育館、体操やるところでイベントやったり講演会やったり、あと学習室では、体育をやったり昼飯出したり、コーヒー飲んだり話したり、廊下には神木会が絵をはったりっていうことを続けてたんだけど、4、5年前から企画ができなくなって、できなくなった。  
やる人がいなくなった。

40:33

そうですね。

40:34

だからそこに入り込んでやって欲しいんだけど、ってあります。

40:42

あでもその「分館まつり」っていう冠じゃなくても大丈夫なんですか？

40:46

だからそれは利用者懇という団体が今でも、あることはある。  
で、祭やると、そういう企画とか運営があるから、もうなんで「まつり」って名前やめて、一旦交流会っていう名前にして細々と2、3人、2、3団体だけができるときやりましょうっていうスタンスになって。

40:12

よくありますよね。

やっぱり続かないというか。

ボリュームが大きくなればなるほど大変、運営するのは大変なので、それを毎回毎回とか毎年ねってやると、やっぱり年に1回でも大変だと思います、大きくなると負担になります。

PTA どうしようってのももう変わらない。

41:33

ね、なんかそれが問題ですよ、きつとね。

宮前区の人みんなやりたいことあるけど、オーガナイズするのちょっとすごい大変だってクレームつけられるって思っちゃうのかもしれないですよ、やったことないけど。

なんかしたらそうしたらそれこそその部分を企業さんにお問い合わせとか。

(そうですね)

石塚さんにお問い合わせとか。

41:54

お祭りがね、あったり楽しいのは行くんだけど。

41:58

今、何か一つすごいだろう、まあ課題解決に役立つ地域資源はって話もしたいんですけど、すごい今重要な話だなと思って聞いてて。

菅生分館って、お祭りやろうと思ったらできないんです、普通にやれば、何か売ろうとしたり。だけど分館のお祭りだって言えばできる、分館を使ってできる。

42:23

あー、はいはいはい。

42:25

そういう、そういった地域の場を活用するっていうのは、いつも役所の場、役所の今の使い方という、うまくそこを入り込んでやるとそういうことが、

(そうですね。)

はい、できるようになり、こういう場所がより活用しやすくなる、っていう。

そういう実はそこでうまく乗かってやると、やりやすくなるというのは実は今の現状としてあるのかなと。

(そうですね)

42:43

確かにそれはいいですね。

42:49

いいですか。

ちょっとね、内容的なこと。

ファンだけに限らず、そのシニアっていう世代を中心に行くのであればね、今はほとんど街中では見かけなくなっちゃったんだけど、あの下町の方に行くとかやってますけど、円台で将棋なんかとか、碁とかね。

そういう場所をね、やはり設けてあげると、それを楽しみに集まる方がシニアの中にはいるはずなんです。

(そうですね)

だから物売るだけとかそういうだけじゃなくして、

(確かに、体験とかね)

やるのがね、そうそうそう。

それともう一つ昔、宮前区では、よろず相談っていうのがありましたね。

よろず相談っていうのが。

それでいつの間にか消えちゃったんだけど、やはりこういうところでね、今の流行っておりますあのコンシェルジュじゃないけども、どこどこで活動したいんですけど、こういう活動がありませんっていう先ほどの情報を発信してあげる場でも、役割は充分果たせるんじゃないかなと思います。

ですから資金を集めるためにはお金もちろん、物品で販売するのもあれだけでも、そういう事項で売りとい

う、情報を売るという、やはり考えを持ってほしいなって私は思いますね。

以上です、ちょっと長くなってごめんなさい。

それだけちょっとね、言いたかったんです。

(ありがとうございます)

44:32

時間がですね、16時までということもあって、ちょっとご発言いただいていない山崎さんとか。

(はい、聞きたいです)

44:38

はい、いやなんかはい。

なんか高齢者って私もそうなんですけど、お喋りっていうのが重要なのかなって思うんですね。

だからコミュニケーションっていうか誰か今日誰とも話していないとか。

だからほんのちょっとした公園でもいいし、どっかどこでもいいんですけど、ちょっとした場所で同じ時間に同じところに行けば同じような人がいる。

でそこで自分はいろんな情報が得られるし、そこでちょっとしたことも相談できる。

そんな場所があればすごく安心してその地域で暮らせるんじゃないかなって思うんですよ。

だからそこに物を売る人がいてもいいし、相談できる人がいてもいいし、体操できる場所でもいいし。

その物は何でもいいと思うんですよ。

ただそこでちょっとお喋りして、安心できる、ほっとできる。

そういう場所と仲間ができればいいなと思います。

45:30

そうですね。

なんか元々エンジョイシニアをやったときに、駅からすごい離れてる場所なんですよ。

でも、駅前っていっぱいもうお祭りあるので、またの駅前でやることないなと思ったんです。

その遠いので、例えばね、神木本町とかってもう鷺沼駅とか遠いので、鷺沼駅に行かなくてもドンと自分家の近くで何かそういうのがあったらいいなっていうので、こちらの場所を借りたんですね。

でこう、スープの冷めない距離じゃないけれども。

46:00

なんかキッチンカーみたいな、

(あー、キッチンカー)

そういうところにいろんなもの積んで、売って歩いて、ちょっとお茶を飲めるみたいな、いろんな地域でいろんな活動公園体操してるところもあればいろんなあるじゃないですか、あの活動してる。

そこにちょこちょこっと出かけて、そこでなんか2人とかちょっとお茶出して、なんかベンチって言うか椅子とか出して、お話できる。

46:26

同じ日に同じ時間ってというのがいいですよ。  
常設ではない。

46:29

そう、ほんのちょっとしたことでいいんです。  
そんななんだろう、売る物は1個でもいいんです、もう一つのもでもいいんです。  
ただ、それが長く、補足、同じ曜日のね時間の同じところに必ず、あの移動図書館みたいな。  
(はいはいそうですね)  
もう細く、長く続けば、何かしらあそこに行けばあの時間に行けば誰かしら知った人がいるってなる。  
それはすごいいいなって思います。

46:59

そうですね。  
なんか最初道の駅って常設のイメージがあったんですけど自分で言ってる。  
でも常設って実際難しいじゃないですか。  
じゃあどうしたらいいかなって考えた時に、やっぱり同じ時間、同じ場所で、  
(同じ曜日でもいいし)  
第3水曜日でもいいし、  
(そうそうそう)  
その2時間とかね。

47:18

知ってる人がいる、そう、なんか話せる人。

47:20

毎回同じ操作ができる、別に常設なくてもできますもんね。

47:26

私もそう思ったんですけど、イベントにこだわらなくていいんじゃないのって思ったんですよ。

47:32

確かにそうですね。  
イベントっていうとやっぱりすごくボリュームが大きくなっちゃうので。

47:38

だからちょっとしたことでいいと思うんですよ。  
それは何でもいいと思うんです。

体操でもいいし、ちょっとしたこう物売るでもいいし、お野菜を売るでもいいですし。

47:45

はい、そうですね。

さっきの菅生分館でのお祭りっていうのもお祭りってなっちゃうとすごくもしかしたら準備ってなっちゃうけれども、例えば毎週水曜日、月に1回第3水曜日でもいいし、っていうときに行って、私たちみたいな運営側が2、3店行って、そこで体操をやる15分。

で、そこで販売がちょっと1個あって、何かお茶が飲めるでもいいし何でもいんですけど、2つでもいいんですけど。

なんかそういうのが毎月1回ある。

でそのそれがフレンドでも月1回あって、私たちこう動くんですけど、なんかそういうのもいいのかもしれないですね。

そしたらイベントって言うと、やっぱり大きいしお祭りとなると。

で常設も難しいとなると、さっきの移動図書館のアイデアで、いろんなところを巡る。

宮前区を巡るでもいいのかもしれない。

48:38

手間をかけないっていう。

(そうですね、そうですね)

48:42

なんとかカフェっていう名前ですつやりますよっていうことであれば、菅生分館として今すいてる部分があるから。

卓球は混んでるんだろうけど、あと学習室なんかは割と空いてるから、あと子どものスペースもあって子どもが時々はいるけど、あの場所的には非常に使いやすい場所ですね。

(そうですね。)

宮前市民館よりは使いやすい。

本物より、失礼だけど。

大きなことやる時はいいんだけど、これ、こういうちっちゃいところするときには菅生分館はすごい使いやすい。こじんまりしてる。

49:20

それこそ今既にある地域のカフェに、もうコラボして入っちゃってもいいかも。

(そうですねそうですね。)

場所を借りるのが大変なときは、いつもやってるあそこに行っちゃえ、っていうのがあってもいい。

そこの活性化するし、そこもいつもテーマがない、テーマがないって言うてたりするので。

(そうですね)

49:41

コミュニティカフェが 50 ヶ所ぐらいあるんですよ、宮前区だけで。  
他の区よりも多くて、かつ公園体操も 50 ヶ所ぐらいだそうです。

(そうですね)

これも完全にいつ、コミュニティカフェは毎月何曜日とか決まったりやったり。  
で、今コロナでちょっと飲まないけど喋ったりはするかもしれないっていうのをやっています。  
なので、その辺掛け合わせたのは、なかなか面白くて、

(そうですね。)

で、公園の利用という意味では、ちょっと僕の地域ケア推進課では多分あんまりないと思うんですけど、公園  
体操やってる場所でそのまま継続してそのままカフェにしているとことは多分ないんですよ。

(へえ)

公園で飲み食って基本しちゃいけないから。

50:24

そう、公園の制約があるんですよ。

50:28

けど、公園体操やってから、違うコミュニティカフェみたいところに、そのままみんな移動して、そこでや  
ってるっていうのはあります。

だからそういうのを活用したり、みんなが認知していけばそういうふうなのもできるし、そういうところに何  
あの相談場所みたいなのを作るっていうのであれば、包括とかは場所がなくても人がいるから行ってくれたり  
すると思います。

ね、小林さん。

50:52

うーん、たまには行きます。

50:56

だから毎日じゃなくてね、偶数月はいますよとか、奇数月はいますよとかでも、なんかそういうのも多分全  
然違うと思うんです。

あの、ただ電話するので怖いと思うんです。

けど、顔が見える人がいるから相談しやすい。

51:13

いつも見ている人がいるっていうのがすごくほっとすると思います

51:17

そうそうそうそうそう。

51:20

ちょっとごめんなさい、時間がなくなってきたので。

荒川さん、ちょっとご発言がないので、少し今の議論とか分館はとか、ぜひ少しお話しただいていいですか。

51:35

いろいろ前向きにこれからやっていけたらいいんじゃないかなって。

これだけの経験なさったんで、繋げて行ってほしいなと思います。

近くにいたんですけど、全然そういうのは知らなかったっていうことがあって。

なんかチラシもポスティングするのが一番いいかなと思います。

それのお手伝いなんかもしますから。

(ありがとうございます)

ただなんか若い人がやってるな、入りにくいな、で終わっちゃったんですよね。

やっぱりカフェを市民館カフェをやったりしてますし、分館でもあの傾聴ボランティアのサークルつくってやってるんですけど、やっぱりコロナで全部私達の活動はストップになっちゃったし。

シニアなんか本当に生活学校っていうのを開いて、あの自分たちが老後に困らないように、お弁当屋さんをやったりっていろいろやって、で分館を支えてきた仲間たちがもう老人ホームに入って終の住処が宮前区じゃなくなった人が多いんですよ。

そういう残念なことがあるので、私達はそれを見てきたんで。

何とか終の住処を自分の家ですね、過ごしたいなっていうことで、若い人と繋がりたいので、もう恥を忍んでいろんなどこ回ってるんですけど、回りすぎてちょっとあの人は何やってる人かって怪しいってことになってしまったので。

もうしょげてるから、もう終わったなっていうところなんですけど。

今は自分の家で何とかできるようなことを考えていきたいなと思います、よろしくお願いします。

(ありがとうございます)

53:21

一つだけいいですか。

(もちろん)

もう一度その納得のいく人生っていうところに非常に私はこだわりますけど、

(私もこだわってます。)

それをね、なんかちょっともうちょっと深掘していきたいなっていうふうに思います。

(そうですね)

つまり老人ホームに入るちょっと手前。

それが地域にたくさんあることがすごく重要だと思うんですよね。

なのでこれだけのコンテンツも含めて、ちょっと練っていったらなど。

(そうですね)

先ほどの話もそうです。

53:50

例えば、なんか重い、軽いで言っちゃいけないんですけど。

もう例えばそういう包括をお願いしなくてはいけないような、ごめんちょっと言い方が厳しいんだけど、言い方が難しいんですけど。

いいんです、健康シニアの方たちが長く、それがずっと長く健康でいられるのが一番、健康寿命じゃないけれども。

私もずっとこの後も宮前区に住むと思うので、健康な状態で長く暮らしていくには運動、睡眠も大事だけれども、コミュニケーションをとる会話が減ってくるとか、そういったことが多いみたいなので、コミュニケーションが取れるっていうのと、あとは情報収集ができるちゃんと情報を得ることができる。

ていうことが大事なんだなということが、何かちょっといろいろ本読んだりしてわかったので、それが続けられる場っていうのを作りたいっていうのがもともとだったんですね。

それでイベントがどうのとか、道の駅がどうのとか言いましたけれども、今のお話の中でちょっと移動図書館をイメージしながら、いろんなところを、日にちを決めて、定日で回っていく。

何箇所もあるかまだわからないんですけども、1ヶ所から始めて2ヶ所3ヶ所っていうのを増やして行ってその場その場で、参加していただける運営の方たちも一緒に集いながら、負担のない細く長く続けられるものがその宮前区の間になったらいいなと思います。

まずその場を作った後に参加していただいた方すごくここが重要なのは、やっぱり声を聞きたいんですよ。どういったことが悩んでいるのかな、どういったことが今、遊びに来ていただいた方に何かちょっと悩みがあるとかちょっと問題があるとか、どういったものが必要なのかとか。

何かそういった声を聞くっていうのも、運営というか、その例えば SDC に繋がるかもしれないんですけども、リアルな声を聞く場にもなれたらいいなっていうふうに思っています。

すいません、喋りすぎました、ごめんなさい。

55:59

ちょっと

56:00

キッチンカーっていうのは本当に厨房で100万で買えるとかっていうことで、  
だけど運転は私はできないから。

56:09

ちょっとこの後、西村さんに全体の発表してもらおうかなきゃいけないんですけど。

(まとめるのが大変～)

56:19

実際、いろいろエンジョイシニアなどいろんな資源が本当にいっぱいあって、声かければやれる人はいるんだけど、その西村さんたちの運営の大変さがすごいあって、ただ継続しないとシニアの場所っていうのは、

意味がないよねっていう中で。

お話を聞いていったら、こう使える資源も、場所もあり、活動もあり、いろんなこともあるし、移動図書館的な方がむしろ高齢者にも好まれるんじゃないかと。

定期的な、増設ではなく、定期的にやはりどっかでやってるってことは、すごくいいなみたいなお話だったと思います。

56:59

あと規模ですよね。

規模がそのイベントとかをお祭りみたいなことじゃなくても、1、2つぐらいで、小さくいく。

(今のものに少しプラスしていく。)

プラスして、余力があれば大きくしてもいいんだけど、その自分たちが回れる範囲で、できる範囲がやっぱりすごい大事だなって、あんまり気張らずのかなというふうに思いました。

それをどっかしてみるとちょっとそうですよねするみたいな。

57:21

既存の物を動かしてみる。

それで運営の手間を軽減するみたいな感じで、何かやれるといいのかなっていう。

(そうですね)

あとは、その情報をやっぱり得ることが大事だということはどういうふうにするかだとか。

納得した人生っていうところで、という取組が求められるのかとか。

そういう中身の話があったと思うんですけど。

ちょっとそれをちょっと今日の話は全然議論をさらに深めていかなきゃいけないかなっていうのもあって、一応次回また改めてまたここで少し皆さん少しプレスト的な感じになったと思っていて、ぜひよろしければ、もう少しこれをさらに進めていく、西村さんのお考えをどう言う風に進めていけるのか。

それに対してちょっとどういう資源を、もっと具体的に持ち寄ったらいいのか、みたいなところをちょっと深めていく場を次のミーティングにしたいと思っています。

西村さん自身も多分少し頭の整理を

(そう、できました)

どういうことが、やりたいことなのか、やっぱりこういう形にしてこうっていうのは深めていく必要があるかなと。

58:25

ありがとうございます。

すごいなんかすっきりしました。

自分でもどう言ったものがあるのか、その実態が、イベントなのか、常設の箱なのか、カフェなのかっていうのがちょっとわからなかったんですけども。

もっとフワツとしてたものが、今日いろいろ教えていただいて、まさに移動図書館、小さく小さく、しかも定

期的にやるっていう。

日にちを決めて回るっていうことも大事だっていうことがわかったので、それをちょっと他の、例えばいろんな事例が多分他の自治体にもあると思うので、ちょっと今のお話を参考に、それ同じようなことやってないかどうか、ちょっと探しながら宮前区の形をまた作って、また相談させてください。

ぜひお願いします。

ありがとうございます。

59:13 [拍手・音楽]